

# 養気軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』  
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

090 | スマイルアップ(接遇向上)

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。

SMILE UP!!



## スマイルアップ(接遇向上)への取り組み

医療相談支援センターは地域医療連携室と患者サポート室/患者相談窓口があり、入院・外来の予約や相談業務を行い、患者さんや地域・病院との懸け橋として役割を果たす部門です。

日頃から、地域の連携機関や患者さん・ご家族と直接または電話など間接的に対話することが多く、接遇の向上の取り組みを行っています。身だしなみ、挨拶、聴き方・話し方など資料を基に部署内で学習し、一人ひとりが笑顔を意識して行動できるよう取り組んでいます。

コロナ禍でマスク着用を必要とされる中、表情が見えにくいからこそ、地域への窓口として笑顔を忘れず安心できる環境づくりを行っています。

(医療相談支援センター 地域医療連携係長 富永 文子) 



# 看護師の育成について

教育担当看護師長 松本 深雪

4月の新人看護師オリエンテーションが終わり少し落ち着いたのもつかの間、臨床現場では、日々の看護業務を実践するための指導が始まっています。

新人看護師はこれからの1年間、毎月フォローアップ研修などを受けながら成長していきます。その教育的支援を効果的に行う指導者の育成もとても重要です！

当院の看護部は、指導者だけでなく、部署全体で新人を支え、育てる風土も根付いてきています。国立病院機構の看護職員能力開発プログラム「ACTyナース

ver.2」に沿って、各レベルが専門的知識・技術を持ち、長崎川棚医療センターが目指す“よりよく生きる”を支える看護師を育成できるよう新人看護師、指導者の教育に力を入れて取り組んでいます。



# 部署紹介(医局)

医局長（脳神経センター長） 戸田 啓介

医局は医師・診療看護師・医局秘書で構成されています。毎朝、前日夜間及び休日の時間外入院患者のカンファランスを行い、診療業務の円滑化・質の向上を目指しています。

また医師・診療看護師が参加する月2回の医局会では、診療・教育・経営面等について情報を共有し、また懸案事項についての協議・決定を行っています。

この数年はコロナ禍のため歓迎会・送別会など親睦を深める機会はありませんが、医師相互の意思疎通を図る機会を提供しています。6名の医局秘書は、日々診断書等の書類作成や研究補助など様々な業務に従事しています。

今後も働きやすい、風通しの良い職場環境を維持できるよう努めてまいります。



# 部署紹介(訪問看護ステーションさくらそう)



訪問看護ステーション看護師長 松本 深雪

昨今の医療において、退院に向けた取り組みが入院時から行われるようになり、4月の診療報酬改定においても在宅療養に関する評価が拡大されました。

さくらそうは、院内に併設している事業所の強みを活かし、外来、入院、退院支援、在宅支援といったシームレスで連携の取れる環境でサービスを提供しています。

また、生まれ育った地域で、その人らしく生活できるようケアマネジャーや事業所、かかりつけ医と連携し訪問看護を実践しています。

コロナ禍において、利用者への感染予防に取り組みながらサービスが低下しないよう日々頑張っています。



# 部署紹介(『経営企画室』・『医事』)

専門職 甲斐 裕樹

『経営企画室』、『医事(入院・外来係)』について紹介いたします。

『経営企画室』は、診療や経営に関するデータを分析・検討することが主たる役目です。それらのデータをもとに、病院の運営方針、経営戦略などの意思決定を行うための情報発信や企画立案を行っています。

『医事』は、「外来・入院受付や医療費の計算・会計」、

「診断書の受付」など、患者さんやご家族と顔を合わせ対応することの多い、窓口業務を担っています。現在のコロナ禍における感染対策のため、窓口ではビニール越しの対応となり、こちらの声が聞こえにくく、ご迷惑をおかけしております。申し訳ありません。また、医療費の支払いや制度、その他のご相談、ご質問などお困り際には、1階の入退院受付窓口にお気軽にお声かけください。



## 部署紹介(総合情報管理室)

総合情報管理室長 宮崎 哲彦

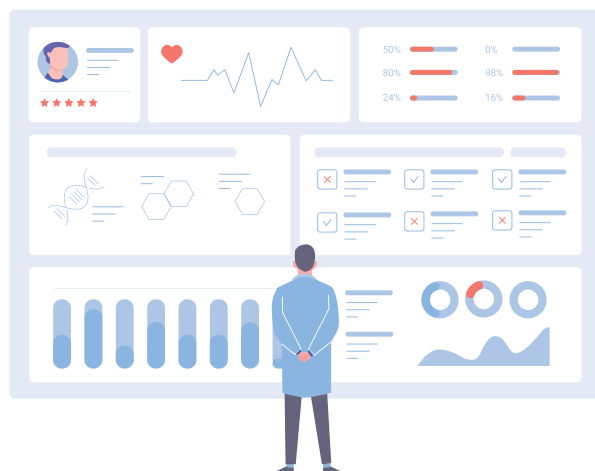
総合情報管理室は、病院と患者さんを裏で支える各種システムの管理や診療データの入出力、グループウェア、各種ネットワークの管理などを行っている部署です。

電子カルテなどの病院情報システムは、24時間365日停止することなく動き続けており、そこに蓄積される様々な情報は非常に重要なものですので、機器の故障や情報漏洩等が発生しないよう日々の点検や可搬記録媒体の管理、職員教育等も行っています。

また病院の広報にも携わっており、院外の皆さんに当院の情報を発信するために、ホームページや広報誌の作成・管理も行っています。

患者さんやご家族に直接接する機会はありませんが、

院内のICT環境整備・管理のみならず、様々な分野で影ながら病院の土台を支えることで、ひいては皆さんのお役に立てるよう今後も尽力してまいります。



## 診療科紹介(小児科)

小児科医長 小森 一広

2018年に小児科を再開しましたが、新型コロナウイルスの流行により、主に感染対策に従事することとなり、一般小児診療は現在休止中です。感染者数が落ち着いている間は乳児健診やワクチン業務は行っていました。

2022年に入り、蔓延予防法など行政対応はされていませんが、新型コロナ患者数の高止まりと、流行の中心が20歳以下であることから、ワクチン業務・乳児健診業務も休止しております。再開のタイミングが難しいところですが、今しばらくお待ちください。

お休み中です。  
もう少し待っててね！



## 編集後記

庶務係長 木寺 和

春真っ只中、気温も暖かくなり大変過ごしやすくなった今日この頃。4月から新体制となり、慣れない1カ月が経過した今、段々と長崎川棚医療センターの新しい1つの“形”が見え始めたところではないでしょうか。終息の見えないコロナ禍の中、皆さまいかがお過ごしでしょうか。何かと我慢の多い時期が続きますが、皆さまがそれぞれ、職務・プライベートにおいて明るく楽しく過ごしていただけることを切に願います。同時に、少しでも早いコロナ禍の終息を願うばかりです。今後もプライベートの外出自粛が余儀なくされます。自粛中でも楽しめる新しい趣味を見つけることもコロナ禍に打ち勝つ1つの方法ですね。昨年はオリンピックで日本中が盛り上がりましたが、今年はサッカーワ

ルドカップが開催される年です。個人的、大変待ち遠しく、家で楽しく観戦したいと思っております。プライベートもしかりですが、職場においても、“楽しく仕事をする”ことが、コロナに打ち勝つ方法だと思えます。是非皆さまで「楽しい職場環境づくり」に努めましょう。楽しい環境こそ、より良い“医療”及び“患者サービス”の向上に結び付くと考えます。私たち事務部もより良い職場環境づくりのため、日々精進して参ります。今年度も大変な1年になると思いますが、皆さまで一致団結して、昨年より更に素晴らしい長崎川棚医療センターの“形”を作り上げましょう。最後までお読みいただきありがとうございます。